

2級 ガラス用フィルム施工(建築フィルム作業)学科問題

真偽法

- 問題 1 光は電磁波の一種で、波としての性質だけではなく粒子としての性質を持つ。
- 問題 2 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムによれば、ガラス貫通防止フィルムのガラスの貫通防止性能は、2段階に区分されている。
- 問題 3 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムによれば、衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルムのガラス飛散防止性能試験は、鋼球落下試験により行われる。
- 問題 4 日射調整フィルムの遮蔽係数は、フィルムの色の濃淡を表す係数である。
- 問題 5 日本工業規格(JIS)で規定されているガラス飛散防止フィルムとは、太陽光の散乱を防止するためのものである。
- 問題 6 剥離フィルムには、アクリル系の樹脂が塗布されている。
- 問題 7 建築窓ガラス用フィルムのハードコート層の目的は、紫外線を反射することである。
- 問題 8 墜落制止用器具は、原則としてフルハーネス型を使用する。
- 問題 9 作業員の移動手段として、建設用リフトの搬器を使用してもよい。
- 問題 10 フィルム施工工事は、建築工事の設計図、仕様書に基づいて実施するため、施工計画書を作成する必要はない。
- 問題 11 強化ガラスに建築窓ガラス用フィルムを施工する場合、熱割れ計算を実施しなくてもよい。
- 問題 12 フィルム工事に使用するマスキングテープは、紙製のものがよい。
- 問題 13 建築窓ガラスフィルム工事に使用する洗浄液と施工液は、同じものを用いてもよい。
- 問題 14 建築窓ガラス用フィルムを屋外で保管する場合、常にビニルシートなどをかぶせておく必要がある。
- 問題 15 強化ガラスに、重ね切り工法でフィルムを施工する場合、ガラスを傷つけないように注意する。
- 問題 16 建築窓ガラスフィルムの施工において、施工前のサッシや窓ガラスの清掃は、ガラスフィルムの貼り付け状態の良否に大きく影響する。
- 問題 17 日射調整フィルムのフロート板ガラスへの施工は、フィルムをあらかじめ所定の寸法(ガラスの見付け寸法より 3~4mm 小さい寸法)に裁断したものをを用いなければならない。

- 問題 18 建築窓ガラスフィルム工事後は、傷や汚れを受けないように注意書きをフィルムの上に貼っておくとよい。
- 問題 19 建築工事のうち、ガラスフィルム工事は仕上げ工事に含まれる。
- 問題 20 外貼り用の建築窓ガラス用フィルムの耐久性は、10年以上といわれている。
- 問題 21 Low-EガラスのLow-Eとは、低反射率のことである。
- 問題 22 日本工業規格（JIS）のサッシによれば、サッシとはガラスなどを含まない窓枠のことである。
- 問題 23 建築において、建物の基準となる壁、床、屋根等の断面を詳細に示す図を矩形図という。
- 問題 24 消防関係法令によれば、無窓階とは建物の地上階のうち窓などの開口部を全く有さない階をいう。
- 問題 25 安全帯の規制に関する法律が改正され、2022年1月2日以降、完全施行された。

多肢択一法

- 問題 1 太陽光線に関する記述として、適切なものはどれか。
- イ 太陽光線に最も多く含まれる光線は、紫外線である。
 - ロ 太陽光線は、地上に到達するまでにその約30%が失われる。
 - ハ 赤外線には、殺菌作用がある。
 - ニ 紫外線は、熱線とも呼ばれる。
- 問題 2 建築窓ガラス用フィルムに関する記述として、適切なものはどれか。
- イ 層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルムは、人体衝突時のガラスの飛散防止を目的としている。
 - ロ 日射調整フィルムは、主に目隠しを目的としている。
 - ハ ガラス貫通防止フィルムは、主に防犯を目的としている。
 - ニ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルムは、地震時のガラスの飛散防止を目的としている。
- 問題 3 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムによれば、日射調整フィルムの性能として規定されていないものはどれか。
- イ 可視光線透過率
 - ロ 紫外線透過率
 - ハ 遮蔽係数
 - ニ 熱貫流率
- 問題 4 フィルムの性能に関する記述として、適切なものはどれか。
- イ ガラス貫通防止フィルムと飛散防止フィルムの違いは、厚さだけである。
 - ロ 紫外線は、粘着剤に添加された吸収剤で吸収される。
 - ハ ガラスに日射調整フィルムを貼付すると遮蔽係数が大きくなる。
 - ニ 日本工業規格(JIS)によれば、フィルムには温湿度の変化による寸法安定性は要求されていない。
- 問題 5 日本工業規格(JIS)の建築窓ガラス用フィルムにおいて、ガラス飛散防止フィルムに関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ ショットバッグ試験において、落下高さ450mmの加撃を10回繰り返してもガラスが破壊しない場合は飛散防止性能に適合している。
 - ロ 内張り用と外貼り用が規定されている
 - ハ 層間変位試験における飛散防止率は、95%以上である。
 - ニ ガラス飛散防止フィルムの可視光線透過率は、60%以上でなければならない。
- 問題 6 建築窓ガラス用フィルムに関する記述として、適切なものはどれか。
- イ 剥離フィルムには、ポリエステルフィルムが用いられている。
 - ロ フィルムの基材には、ポリスチレンが用いられている。
 - ハ 日射遮蔽フィルムの金属層には、チタンが用いられている。
 - ニ 剥離フィルムの表面には、アクリル樹脂が塗布されている。

- 問題 7 文中の()内に当てはまる数値として、適切なものはどれか。
建築窓ガラス用フィルムの粘着層の厚さは、5～() μm である。
- イ 10
 - ロ 30
 - ハ 60
 - ニ 90
- 問題 8 フィルム施工における具体的な熱中症対策として、適切でないものはどれか。
- イ 作業環境に適応するための期間を設ける。
 - ロ 休憩場所を整備する。
 - ハ 透湿性・通気性のよい服装として半袖の作業着を着用する。
 - ニ WBGT値を活用する。
- 問題 9 文中の()内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。
労働安全衛生法関係法令によれば、()m以上の高所から物体を投下するときは、適当な投下設備を設け、監視人を置く等労働者の危険防止のための措置を講じなければならないと規定している。
- イ 2
 - ロ 3
 - ハ 4
 - ニ 5
- 問題 10 次のうち、建築窓ガラスフィルム工事の施工要領書に記載しなくてもよいものはどれか。
- イ 材料
 - ロ 工法の種類
 - ハ 施工法
 - ニ 工事費
- 問題 11 フィルム工事の段取りの手順として適切なものはどれか。
- イ フィルムの選定⇒現場での寸法取り⇒サイズ表の作成⇒ガラス、サッシの点検
 - ロ フィルムの選定⇒現場での寸法取り⇒ガラス、サッシの点検
 - ハ フィルムの選定⇒図面に基づく寸法取り⇒現場での寸法取り⇒ガラス、サッシの点検
 - ニ フィルムの選定⇒図面に基づく寸法取り⇒ガラス、サッシの点検
- 問題 12 ガラス飛散防止フィルムのフィルム裁断用器工具として適切でないものはどれか。
- イ カッターナイフ (大型のもの)
 - ロ 鋼製巻尺 (スケール)
 - ハ はさみ
 - ニ マスキングテープ

- 問題 13 ガラス貫通防止フィルム工事の器工具として、清掃、フィルム貼り、フィルム仕上げに共通して用いている器工具として適切なものはどれか。
- イ 手動式スプレー
 - ロ スクレーパー
 - ハ プラスチック製スキージー
 - ニ 三角定規
- 問題 14 建築窓ガラス用フィルムの搬入、保管に関する記述として、適切なものはどれか。
- イ 高温多湿の場所に保管する。
 - ロ 床に直接たて積みで保管する。
 - ハ フィルムの両端(小口面)を傷めないようにする。
 - ニ 屋外に保管してもよい。
- 問題 15 突き付け貼り工法におけるフィルムの突き付け部の位置及び方向として、最も適切なものはどれか。
- イ ガラスの中央で、縦の方向に行う。
 - ロ ガラスの中央で、横の方向に行う。
 - ハ ガラスの右又は左に寄せて、縦方向に行う。
 - ニ ガラスの上又は下に寄せて、横方向に行う。
- 問題 16 ガラス飛散防止フィルムの施工方法に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ フィルムのフロート板ガラスへの施工を1枚貼り工法で行う。
 - ロ フィルムの熱線反射ガラスへの施工を重ね切り工法で行う。
 - ハ フィルムの強化ガラスへの施工を突き付け貼り工法で行う。
 - ニ フィルムの強化ガラスへの施工をプレカットで行う。
- 問題 17 ガラス貫通防止フィルムの施工に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ フィルムの裁断寸法は、窓ガラスの見付け寸法よりも3~4mm小さくする。
 - ロ フィルムのカットは、1度切りとする。
 - ハ 粗切りされたフィルムの、剥離フィルム面を上にしてカットする。
 - ニ 圧着作業は、2回以上行い、施工液を完全に押し出す。
- 問題 18 建築窓ガラスフィルム施工後、水分の乾燥が遅い場合の処置として、適切なものはどれか。
- イ 電気ストーブなどを作動させて、室温を上げる。
 - ロ 針などでフィルムに小さい穴をあける。
 - ハ 再度、スキージーで圧着し、水分を抜く。
 - ニ 空調設備などを作動させて、室内の空気を循環させる。
- 問題 19 建築工事の仕上げ工事でないものはどれか。
- イ 天井工事
 - ロ 窓、出入口の工事
 - ハ 電気工事、ガス工事
 - ニ 瓦工事

- 問題 20 建築窓ガラスフィルムの改修工事に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ 洗浄液を噴霧して、ポリエチレンフィルムでカバーしておく、フィルムを剥がしやすくなる。
 - ロ フィルムの剥離作業を容易にするためには、フィルムを適当な大きさにカットして行うとよい。
 - ハ フィルムを剥がした後、粘着剤が残っている場合は、洗浄液を噴霧し、スクレーパーを用いて掻きとるとよい。
 - ニ フィルムを剥がした後、残った粘着剤は、溶剤を使用して除去するとよい。
- 問題 21 板ガラスの工法に関する記述として、適切でないものはどれか。
- イ エッジクリアランスは、サッシのはめ込み溝の底からガラス端部までの距離である。
 - ロ エッジクリアランスは、熱割れ防止の空間確保の役割がある。
 - ハ かかり代は、サッシのはめ込み溝の上端からガラス端部までの距離である。
 - ニ かかり代は、地震のムーブメントの吸収の役割がある。
- 問題 22 文中の()内に当てはまる数字として、適切なものはどれか。
日本工業規格 (JIS) によれば、サッシの耐風圧性は性能により () の等級に区分されている。
- イ 4
 - ロ 5
 - ハ 6
 - ニ 7
- 問題 23 日本工業規格 (JIS) の建築製図通則によれば、下図の平面表示記号が表すものはどれか。
- イ 引違い戸
 - ロ 引き違い窓
 - ハ 回転窓
 - ニ 出入口一般
-
- 問題 24 建築基準法関係法令によれば、不燃材料でないものはどれか、
- イ コンクリート
 - ロ アルミニウム
 - ハ ガラス
 - ニ プラスチック
- 問題 25 労働安全衛生規則の改正による安全帯から墜落制止用器具への変更に伴い、次の墜落制止用器具のうち使用が認められるものはどれか。
- イ 胴ベルト型 (U字つり)
 - ロ 旧規格適合の胴ベルト型 (一本つり)
 - ハ 新規格適合のハーネス型 (一本つり)
 - ニ 旧規格適合のフルハーネス型

2022年(令和4年)度技能検定
ガラス用フィルム施工学科試験正解表

級別	2 級
----	-----

作業名	建築フィルム作業
-----	----------

A 群 (真偽法)	
問題番号	正 解
1	○
2	○
3	×
4	×
5	×
6	×
7	×
8	○
9	×
10	×
11	○
12	○
13	×
14	×
15	×
16	○
17	×
18	×
19	○
20	×
21	×
22	○
23	○
24	×
25	○

B 群 (多肢択一法)	
問題番号	正 解
1	□
2	ハ
3	ニ
4	□
5	ニ
6	イ
7	□
8	ハ
9	□
10	ニ
11	ハ
12	イ
13	イ
14	ハ
15	イ
16	□
17	ハ
18	ニ
19	ハ
20	ニ
21	ニ
22	ニ
23	□
24	ニ
25	ハ